

# 自転車利用実態定点調査報告

平成27年6月

(一財)日本自転車普及協会

**調査目的** 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

**調査日時** 平成27年5月28日  
[午前]8:00~8:50

**調査場所** ・ 都立〇〇高校(共学)  
**概要** ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

**調査事項** 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間			危険走行	危険走行		
	車道	歩道	その他		危険走行	危険走行	危険走行
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							

調査日時:	平成 27 年 5 月 28 日
実施:	1 組
調査時間:	8:00 ~ 8:50

<調査票>

## 【コメント】

◎走行空間においては、歩道走行率が、92%であり、車道左側走行率は、6%であり、車道右側走行率は、2%の結果であった。

◎危険運転行為は、片手運転(163件/内 12件は、携帯電話を使用しながらの運転)・肩に荷物(53件)・カバン背負い(22件)・並列運転(20件)・立ち漕ぎ(17件)・ハンドルに荷物(16件)・ギター背負い(6件)・二人乗り(6件)の順となっている。

## 【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

同校の生徒においては、歩道通行者が主体であり、極一部の生徒が左側通行をしていた。

原因として、幹線道路(片側1車線)に面しており、交通量も多いことが考慮される。

車道を避けて歩道を通行せざるを得ない状況となっているが、歩道(幅員3m)が狭いため、自転車や歩行者のすれ違いには、危険を感じる状況でもある。

また、カバン背負い及びギター背負いの生徒の一部は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が望ましい。(重量やバランスの関係からギター背負いの生徒は、特に注意が必要)

さらに、危険運転行為の中では、片手運転が、全体(299件)の5割強(163件)を占めていた。

不安定な走行を招きやすいため、行わないことが望ましい。

しかし、数名の生徒がヘルメットを着用通学しており、危険回避に留意している。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数701人)の9割程度である。

校内には、駐輪場が複数整備(総収容台数600台)されていた。

なお、校門直前で左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

今回、自転車通学用の校門は、1箇所(正門)のみ存在していた。(他門もあるが、通常は、閉鎖中)

また、同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、教員による自転車通学の校外での指導は、特に行われていなかったが、交通安全啓発の一環として、ホームルーム等日常の指導に加えて全校生徒（年に1回）を対象に地元警察より交通安全指導を行っている。



自転車駐輪場(中央地区)



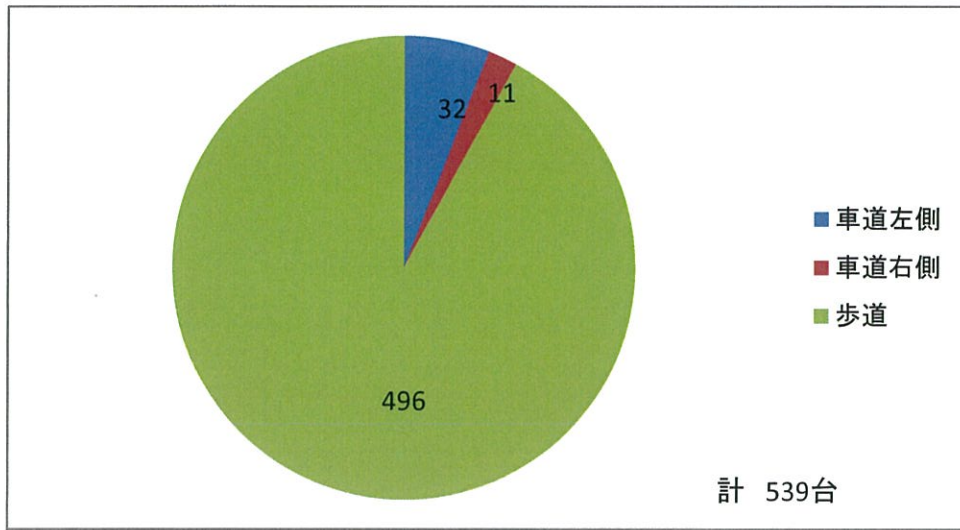
自転車駐輪場(同反対側)



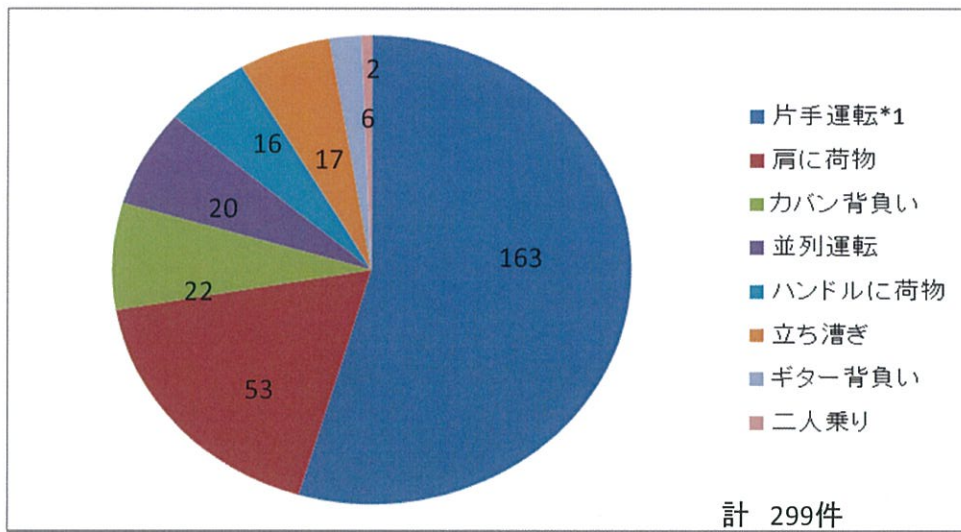
自転車駐輪場(他地区)



自転車駐輪場(他地区)



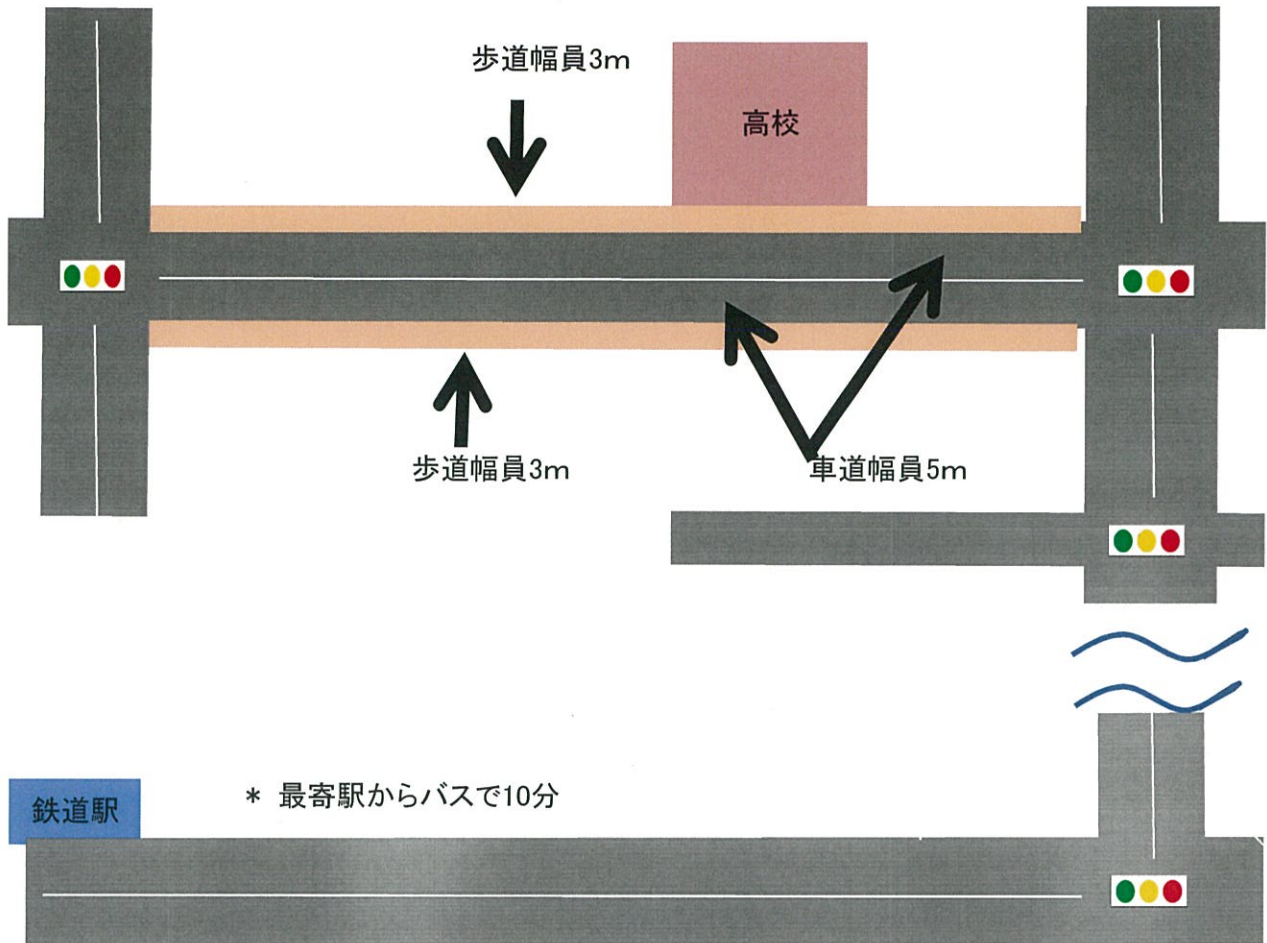
走行空間



危険運転行為

\*1 内4件 携帯電話を使用中の運転

# 最寄図



鉄道駅

\* 最寄駅からバスで10分